

校訓：人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう
学校教育目標：自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成



薫陶

学校だより くんとう
9月号 令和6年8月28日

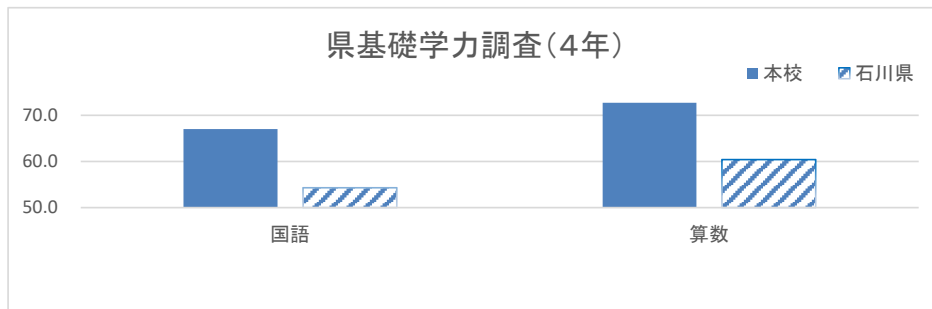


七塚小HP QRコード

令和6年学力調査結果のお知らせ

初秋の候、保護者の皆様には本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。今回の特別号では、1学期に実施した学力調査(4~6年)の結果をお知らせします。これらの結果を今後の教育活動に生かしてまいりますので、引き続きご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。

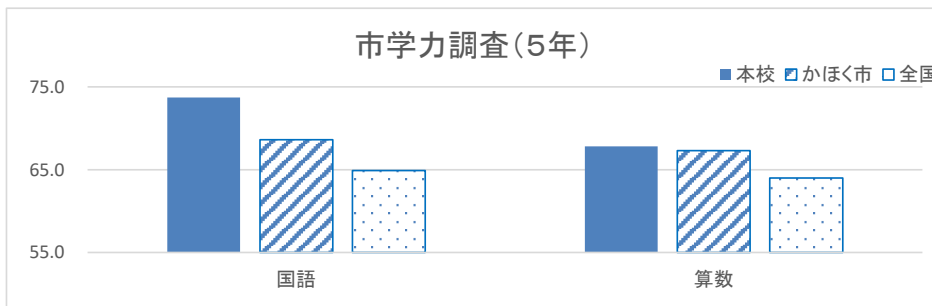
令和6年度 県基礎学力調査(4年)



- 4年生の国語では、県平均正答率を大きく上回った。
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくることはできている。また、条件に合わせて、必要な文や言葉を使って書くことはできている。
- 簡単な単語についてローマ字表記されたものや基礎的な漢字を読むことができている。
- ▲ 問題の題意を読み取って自分の考えを書いたり、文章の中から目的を意識して、中心となる語や文を抜き出して表したりする力が弱い。
- ▲ 指示語の役割について理解できていない。

- 4年生の算数では、県平均正答率を大きく上回った。
- 多くの設問で県平均を上回った。
基本的な計算や、長さや重さ、時間の単位について理解できている。
- ▲ 図形についての算数用語を使ってまとめたり、簡単な二次元表の数値から読み取ったことを表現したりする力が弱い。

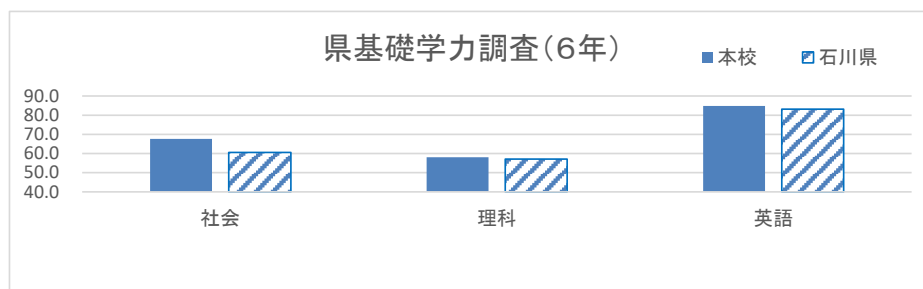
令和6年度 市学力調査(5年)



- 5年生の国語では、全国や市平均正答率を上回った。
- 多くの設問で市・県平均を上回った。
漢字の読み書きや物語の内容を読み取ることはできている。
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、文章を書くことができている。
- ▲ 連用修飾語についての理解や、説明文の内容を読み取る力が弱い。

- 5年生の算数では、全国の平均正答率を上回り、市平均正答率と同等だった。
- 小数や計算のきまり、簡単な場合についての割合などについて理解できている。
- ▲ 二次元表を読み取り比べたり、伴って変わる2つの数量の関係を式にして求めたりする力が弱い。

令和6年度 県基礎学力調査（6年）



○ 6年生の社会では、県平均正答率を上回った。

- 石川県全体の地形や世界における我が国の国土の様子について理解できている。
- 森林の種類や広がりや漁業生産量について、資料から読み取ることができている。
- ▲ 実際の距離や位置を縮尺を用いて測定することや社会科の用語の理解が定着していない。
- ▲ 複数の資料を基に考察し、題意に沿って適切に表現する力が弱い。

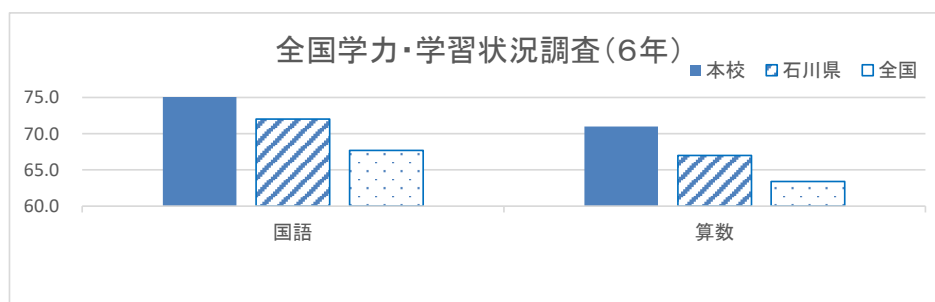
○ 6年生の理科では、県平均正答率をやや上回った。

- 太陽の位置の変化や電流の向きや大きさの学習について理解できている。
- ▲ 学習課題に正対したまとめを、実験結果を基に考え表現する力が弱い。
- ▲ 実験について、必要な条件を考えたり、資料を基に発想したりする力が弱い。

○ 6年生の英語では、県平均正答率をやや上回った。

- 簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、必要な情報を得ることができている。
- ▲ 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字や小文字を書くことができていない。

令和6年度 全国学力・学習状況調査（6年）



○ 6年生の国語では、全国のや県平均正答率を上回った。

- 資料や文章を読み、書かれている内容として適切なものを選択することはできていた。
- ▲ 複数の条件に合うように、文章中から必要な言葉や文を取り上げて表現する力が弱い。
- ▲ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力が定着していない。

○ 6年生の算数では、全国や県平均正答率を上回った。

- 数と計算の学習や円・折れ線グラフや二次元表の読み取りなどについて理解できている。
- ▲ 速さの学習において、求めた答えの理由を言葉や数を用いて記述する力が弱い。また、速さの意味理解などの学習内容も定着していない。

〈これからの学習指導で力を入れること〉

国語

問題の題意をつかませるため、問題文や問題を解くために必要な部分に線を引いたり丸で囲んだりする指導を徹底します。授業の中で、文章中から必要な言葉や文と取り上げて、書き抜いたりまとめたりする活動を取り入れます。また、日頃から文章を書いた後に読み返すことで、主述のねじれや誤字・脱字等の間違いがないかを確認し、自分で修正できるように習慣付けていきます。

算数

国語と同様、問題文や資料にある数字や問われていることに線を引いたり丸で囲んだりする指導を徹底します。授業の中で、教科の用語や図等を適切に使ってまとめたり、算数的活動を取り入れたりする機会を数多く設けます。また、基礎・基本の定着を図るために、児童の苦手意識がある問題に継続して取り組み、分からないところを見極め丁寧に指導していきます。

理科

基礎・基本の定着を図るために、教科の用語を掲示や短冊で示し、繰り返し確認します。観察や実験において、目的をもって具体的に見通しをもつ中で、条件や方法を考えたり、結果を基に考察したりする機会を設けます。また、まとめる前に課題に立ち返り、本時のねらいに沿ったまとめになっているか見取っていきます。

社会

基礎・基本の定着を図るために、地図帳の使い方や縮尺の問題に適宜取り組み、丁寧に指導していきます。また、複数の資料から必要な情報を読み取り、分かったことや問題点などを自分の言葉でまとめる時間を多く設定し、必要な情報の読み取り方や意図に合う答え方について指導していきます。



〈4年・6年質問紙調査より〉

- 「学校は好きだ」の質問に対し、肯定的評価をした児童が4年生で91.3%、6年生で97.7%おり、学校生活を楽しく過ごしている様子が見られます。各教科の「勉強は好きだ・よく分かる」の質問に対しても、肯定的評価をした児童の割合が多いです。今後も、児童にとって「楽しく」「分かる」授業を心がけ、安心・安全に過ごせるように配慮していきます。

- 今年度から、本校では学校研究で「主体的に学び合う子」を育てるために、「個別最適な学び」についての取組を行っています。課題に対する自分の学び方を身に付けるために、授業の中で「学びの木」で示されたカードの中から、児童が自分で学習形態や学習方法等を選択しています。今回の質問紙でも、「少ない人数やグループで勉強すること」について肯定的評価をした児童は、4年生で100%、6年生で95.5%おり、全体での学習だけでなく、様々な形態で学ぶことができるようになっていきます。今後も、必要な場面で、必要な方法を選択する力がつくように指導していきます。

- ▲ 「自分の考えを発表したり、話し合ったりすること」について肯定的評価をした児童は、4年生で68.6%、6年生で61.4%という結果となり、発言に対して苦手意識がある児童がいることが分かります。授業の中で、自分の考えを発表したり話し合ったりすることで、学習の深まりや楽しさを実感できるような授業づくりを意識して行っています。また、タブレット型端末で自分の考えを共有するなどの工夫をし、みんなで学び合うことの大切さを伝えていきます。

- ▲ 「教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること」について肯定的評価をした児童は、4年生で72.9%、61.3%という結果となり、自分で進んで勉強する力がやや弱いことが分かります。また、「分からなかったことや、もう一度勉強し直すこと」、「学校の予習・復習をしている」の項目でも、同様の結果が見られました。自学の学習の方法を児童に示したり、友達のよいノートを紹介したりする中で、復習や予習の大切さを伝え、自分のために行う時間であることを指導していきます。また、発展として、自分の興味関心に合わせて本やタブレット型端末を活用して調べたことをまとめる学習も推奨したり、授業の中で取り組む機会を設けたりしていきます。

